

「今の私は、不便だけど決して不幸じゃない」

～毎日が新しい発見だらけで、
いろいろなことにチャレンジしています～

昨年の春、湯島聖堂近くの歩道を歩いていたときに、強風で倒れてきた案内看板の下敷きとなり、脊髄損傷の大怪我を負ってしまった猪狩ともかさん。アイドルグループ「仮面女子」のメンバーである彼女の芸能界復帰は絶望的とも思われましたが、必死のリハビリを経て奇跡の復活を遂げました。とても1年前に受傷したとは思えないほどキラキラ輝く笑顔がステキな猪狩さんに、これからの活動について伺いました。

5月1日の舞浜アンフィシアターでのワンマンライブはお疲れさまでした。とても感動的なライブでしたね。

ありがとうございます。私自身、初めて参加するワンマンライブだったので、とても楽しかったです。体力的なこともあり、予定よりも半分くらいしか出演できなかったのが、少し悔しかったんですけど…。復帰してから何度かライブには参加してきたのですが、今回はちょっとレベルが違いました。振り付けも、フォーメーション移動もガッツリありましたから。

事故から1年が経ったばかりなのに、いろいろなところで活躍されていますよね。その原動力はどこから来ているのでしょうか。

入院中も、とにかく「早く復帰したい」という思いで必死でした。事故当時の私は、医者から脊髄損傷だと聞かされても、知識がないのでいざ治ると信じていたんです。自分の状況に気が付いたのは、兄のおかげですね。普段全く連絡も取れなくて、家族のLINEにもほとんど登場しないレアカヤの兄が、毎日お見舞いに来てくれる。その姿を見て、「あれ？私は何かつこう重い怪我なのかな？」と悟ったんです。

でもその時、家族のみんなが「車いすでも、いろいろなことができる」と、前向きに励ましてくれました。私は仮面女子が大好きだったし、アイドルの仕事は辞めようとは全く思わなかったたので、つらいリハビリを乗り切れたのだと思います。

ファンレターもたくさんいただきました。もし私が普通の女の子だったら、こんなに多くの方から励ましてもらえなかったはずですよ。本当にアイドルで良かったって、つくづく思いますね。

本当に前向きですよ。

昔は私も、障害のある人のことを可哀相な人たちと見ていたんです。でも自分がこういう身体になってみると、たしかに不便なことは多いけど、決して不幸じゃない。いろいろなことにチャレンジしていけば、毎日が新しい発見だらけです。1つのことができるたびに嬉しくなって、いつもまわりに報告しています。まるで子どもの頃に戻ったような感覚ですね。

本当は私、そんなにプラス思考の人間じゃないんですよ。ちょっとしたことでも、すぐ落ち込んでしまいます。でも、怪我をしてから、少し変わったのかもかもしれません。ポジティブな言葉を発しながら、自分自身に言い聞かせるようになりました。

今、一番困っていることはありますか。

それはやはり移動に関することですね。まだ一人では遠くに出かけられないので、仕事があるたびにマネージャーさんに迎えに来てもらっています。本当に申し訳ないです。できれば早く、一人で動けるようになりたいです。

あとは、街に出ると段差が多いことがつらいかな。坂道に段差があったりすると、まだまだ車いす初心者の私は一人ではどうにもなりません。先日もちょうど親切な人が助けてくれたので、本当に助かりました。

Profile

アイドルグループ 仮面女子メンバー

いがり

猪狩ともかさん

1991年生まれ。生まれも育ちも埼玉で、「地元・サイタマ」をこよなく愛し、生粋の埼玉西

武ライオンズファン。メットライフドームにて始球式を行うなどの活躍を見せていたが、2018年4月の事故によって車いす生活に。芸能界復帰が絶望的と思われていたが、同年8月には車いすに乗って秋葉原の仮面女子ライブに登場。現在も不定期ながらライブ出演を続けつつ、パラスポーツや作詞への挑戦など、新しい分野に活躍の場を広げている。

公式サイト：猪狩ともかオフィシャルブログ
<https://ameblo.jp/igari-tomoka>



パラスポーツに取り組むなど、活躍の舞台がどんどん広がっています。これからどんな仕事に挑戦したいですか。

一番の目標は、東京2020パラリンピックにレポーターとして携わることです。あとは、いろいろな街に出かけて行って、車いすでも楽しめる場所のリストを作りたい。自分のためにもなるし、同じ境遇の人に役立てると思うから。バリアフリーマップの「イガリ版」ですね。

事故に遭ってから、仕事の自身は大きく変わっています。これまでは個人でいただけの仕事って、野球関係のものが多いのでしたから。でも今は、パラスポーツであったり、今日みたいな取材関係だったり、さまざまな分野の方からお声掛けいただけるようになりました。



ワンマンライブに登場した猪狩さん。武井壮さんから贈られた「電飾で光る車いす」に乗り、パフォーマンスを披露した。

最後に、読者の皆さんにメッセージをお願いします。

私が高校生の時、ある先生が心筋梗塞から復帰してきたことがあったんです。でも後遺症が残っていて、しゃべり方もろれつが回らないし、歩き方もぎこちない。だからその先生は、心ない生徒たちから笑いのものになりました。もちろんその生徒たちが悪いのですが、何の説明もしなかった学校側にも問題があると私は思うんですね。

生徒たちがどうして笑うのかというと、心筋梗塞になった患者さんのことを何も知らないからでしょう。自分とは違うところに対して、変な興味をもってしまふのは仕方ないことです。そうならないように、学校側は先生のことをちゃんと説明する必要があります。ではないでしょうか。

当時のことは、とても苦しい思い出です。あんな経験を繰り返したくないから、障害のある人たちと一緒に暮らすのが当たり前の世の中になってほしいのです。一度でも関わったことがあれば、ちゃんと理解してあげられるはず。福祉関係者の皆さんには、障害のある人たちと健常者がふれあう機会を、たくさん作っていただきたいですね。私も微力ながら、そんな活動のお手伝いできればと考えています。